



病院嫌いの長女 受診促すには？

小学3年生の長女の病院嫌いに困っています。最近、全身をかゆがつかきむしり、出血していることもあります。見るからにアトピー性皮膚炎なのですが、皮膚科に連れて行くことすると頑固に拒否します。これまで目立った病気をしたことがなく、病院は予防接種で行くくらいなので「注射をされる」「怖い」と思い込んでいるのが原因のようです。

市販の塗り薬や保湿剤で様子を見ていますが改善されず、病院で処方された薬ならきれいに治ると諭しましたが、聞く耳を持ちません。きれいな肌にしてあげたいのですが、どうすればいいでしょうか。

先生、教えて！

子育て・教育相談コーナー



仙台市太白区
40代・会社員
からの質問

●回答してくれた人

村田 祐二さん

むらた・ゆうじ 北海道函館市出身。小児科医。2021年4月から、仙台市夜間休日子ども急病診療所所長。東北会病院副院長も務める。



このコーナーは保護者からの子育てや教育についての相談を募集しています。メール、郵送のほかQRコードから応募できます。

▶記入事項 氏名、年齢、職業、住所、家族構成、電話番号、メールアドレス

▶宛先 〒980-8660 河北新報社
こども新聞係。メールアドレスkyo
pro@po.kahoku.co.jp



難しい年頃になってくるし、親も大変ですね。まず、お子さんのトラウマ（心的外傷）になっている病院でのつらい思い出を、しっかり言葉として吐き出させ、その時お子さんが目で見て耳で聞いて心で感じたことに、共感してあげてください。

「○年生になったんだから、そのくらい我慢しなさい！」は禁句。陰性感情をためると、あらゆる方向に心が乱れていきます。受け入れられたという体験の繰り返しから、「お母さんの安全基地」が出来上がります。帰れる港があると、船出ができます。

次は、不安の外在化、具体化です。漠然とした不安には出口がありません。具体的にどういことが起こり、何が不安なの

不安聴き一緒に対策を

か、しっかり聴いてください。不安一つ一つに、一緒に対策案を話し合いましょう。常日頃の親子の会話も重要です。

この年齢だと、助言はするけれど介入はしない、というスタンスも必要です。介入とは、何でも親が決めることです。子どもが決めて責任も負うという方向に、少しずつ移行する時期だと思います。ただ、逃げ道を作っておくことも、場合によっては必要です。しっかり話し合い、病院まで行ったけれど入れなかった、もあります。

安全、安心の居場所は、これからのお子さんの一生にとっても大切です。今回を、いい家族づくりのチャンスと前向きに考えてはいかがでしょうか。